

6 現金給与総額

- ・ 従業者の現金給与総額は1兆9176億円で、前回と比較すると1239億円(△6.1%)減少した。
- ・ 常用労働者1人当たり現金給与総額は469万円で、前回と比較すると8万円(1.7%)増加した。

(1) 産業別の状況

従業者の現金給与総額を産業別にみると、「印刷・同関連業」が4097億円(構成比21.4%)で最も多く、次いで「一般機械」が1916億円(同10.0%)となっており、この2産業で全体の3割を超えている。

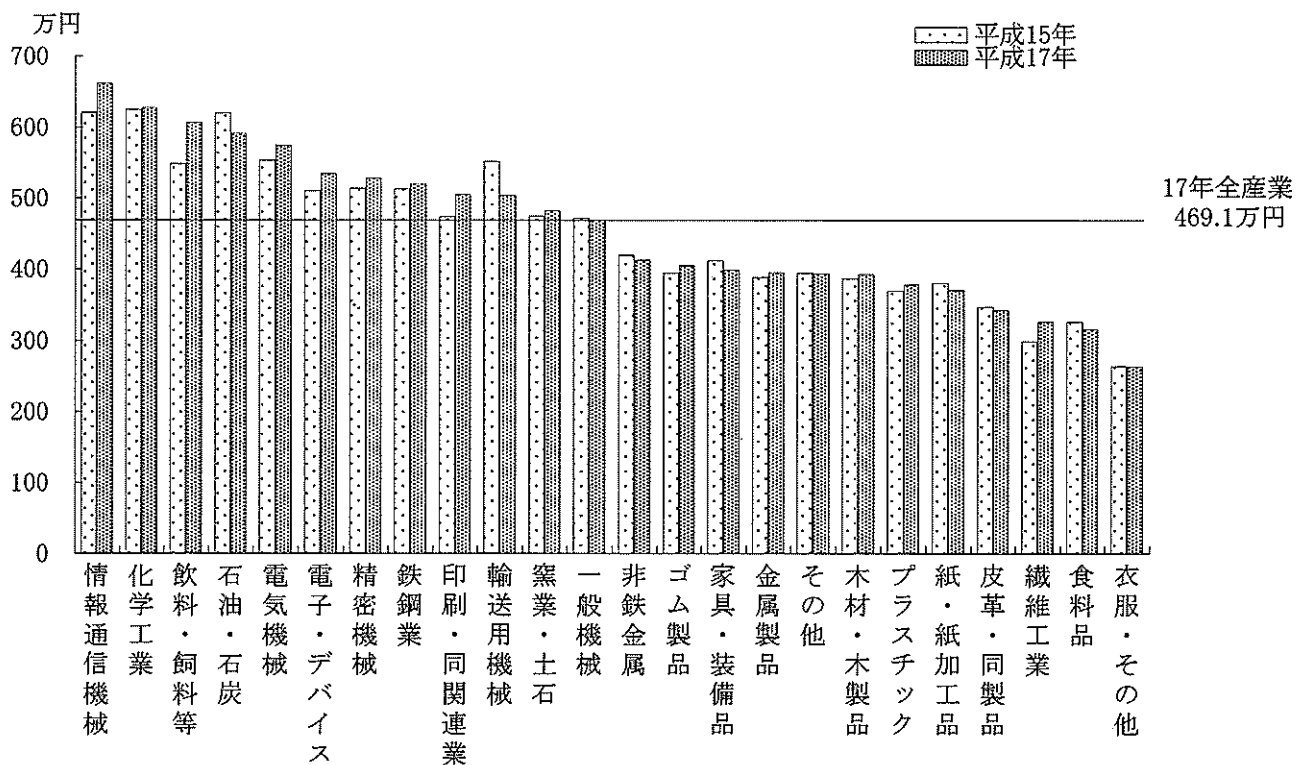
前回と比較すると、「電子・デバイス」、「精密機械」が増加し、他の22産業は減少した。増加額では「精密機械」が72億円(7.7%)で、減少額では「情報通信機械」が234億円(△16.6%)で最も大きい。

常用労働者1人当たり現金給与総額は、「情報通信機械」が662万円で最も多く、次いで「化学工業」が628万円、「飲料・飼料等」が607万円の順となっている。「衣服・その他」が263万円で最も少ない。

前回と比較すると、「飲料・飼料等」、「繊維工業」、「木材・木製品」など14産業が増加した。

(図19、付表5・8)

図19 産業中分類別常用労働者1人当たり現金給与総額及び前回比較(全数)



(2) 従業者規模別の状況

従業者の現金給与総額を従業者規模別にみると、「1000人以上」が3540億円（構成比18.5%）で最も多い。

前回と比較すると、「200～299人」が163億円（19.5%）増加し、他の従業者規模は減少した。減少額は、「10～19人」が307億円（△11.8%）で最も大きく、次いで「4～9人」が226億円（△7.8%）となっている。

常用労働者1人当たり現金給与総額は、「1000人以上」が687万円で最も多く、「1～3人」が310万円で最も少ない。

（図20、付表6・9）

図20 従業者規模別常用労働者1人当たり現金給与総額及び前回比較（全数）

